

ドイツ・ベートルから、
特別ゲスト来日！！
「ちいきの当たり前」を、
富田林から。

Ludwig氏



Conty氏



シンポジウム 施設から地域へ

～ベートルと金剛コロニーの歩みと現在、
そしてこれから～

【開催概要】

日時：2026年11月14日（土）

10:00～15:00（開場 9:30）

会場：こんごう福祉センター多目的ホール
（富田林市大字甘南備216）

定員：100名（先着順）

参加費：無料（希望者のみ昼食代として500円）

※会場周辺に飲食店等がないため、希望者にはお弁当をご用意します。発注手配のため、**11月6日**までにお申し込みください。



日本のコロニー政策のモデルの一つとされたドイツの医療・福祉のまちベートル。すべての人の無条件の尊厳と多様性の自然な共生を理念に掲げ、誰もが対等に生きる「ひとつの街」を創り上げてきました。

一方、当事業団の原点である大阪府立金剛コロニーも、日本有数の施設から地域生活への移行や自立民営化を経て、現在は「すべての人が当たり前に分らなく暮らせる地域」を目指し医療・社会福祉事業を展開しています。

国や時代は異なれど、「すべての人が、尊厳と役割を持って生きられる社会を」という同じ志を抱いて歩んできた二つの施設。本シンポジウムでは、ベートルの歩みをうかがい、ディスカッションを通じて日本の障がい者福祉のこれからを考えます。

【スケジュール】

10:00 開会

10:10～ 第1部「講演」

（「ベートル」と「大阪府障害者福祉事業団」の歩みと今）

12:00 休憩

12:45～ 第2部「パネルディスカッション」

（ドイツと日本の障がい者福祉について）

14:50 閉会

問い合わせ先 大阪府障害者福祉事業団
経営企画課 0721-70-7861

参加申込フォームは
こちら↓



正式名称「フォン・ボーデルシュヴィング財団・ベートル」は、約160年の歴史を持ち、障がい者支援や戦争・ナチス政策の苦難を越えて発展してきたドイツの医療福祉共同体です。ベートルでは、「施しよりも仕事を」の精神のもと、8,000人以上の障害がある人々が暮らし、2,400におよぶ多彩な職種で就労や社会参加を実現しています。病院や学校、企業連携事業などを揃え、地域社会と一体となったインクルーシブな街づくりを展開しています。

～パネラー紹介～



Wolfgang Ludwig 氏
(ヴォルフガング・ルートヴィッヒ)
「フォン・ボーデルシュヴィング財団・ベートル」
福祉的就労・就労移行支援事業・運営責任者

福祉的就労（proWerk）のマネージング・ディレクターとして、障害や精神疾患のある人々の就労参加や居住支援、インクルージョンの推進に尽力する専門家。パーソン・センタード・アプローチに基づき、企業との連携や革新的な雇用モデルの構築を通じた、個人が自律し社会参加できる環境づくりに取り組んでいる。



Marieke Conty 氏
(マリーケ・コンティ)
「フォン・ボーデルシュヴィング財団・ベートル」
ベートル地区責任者・発達障がい支援サービス等総責任者

複雑な支援ニーズや自閉症スペクトラムのある人々への支援サービス総責任者および研修機関「AUTEA」の運営を担う心理学者。パーソン・センタード・ケアやTEACCH®アプローチを専門とし、重度支援から自己決定・社会参加の促進まで、エビデンスに基づいた個別化支援の実現と専門職育成に尽力している。



島田 信吾 教授 Shingo SHIMADA
元・ハインリッヒ・ハイン・デュッセルドルフ大学現代日本研究所教授（社会学）
大阪大学招へい教授（2019-）

1972年に渡独後、ドイツのエアランゲン・ニュールンベルク大学で社会学博士号および教授資格を取得し、ハレ・ヴィッテンベルク大学教授やデュッセルドルフ大学高齢社会研究センター所長などを歴任。日独の高齢社会や地域ケアに関する比較研究に従事し、共著書『老年性認知症と地域ケアー日独比較』などを手掛けている。



斉藤 弥生 教授 Yayoi SAITO
大阪大学大学院人間科学研究科教授、
放送大学客員教授

社会福祉学や地域福祉、高齢者介護の国際比較を専門とし、北欧やドイツの福祉事情に関する長年の調査研究に従事する。大阪大学の「DE&Iプロジェクト」において障がい者就労に関する研究と実践を担当するほか、『スウェーデンにみる高齢者介護の供給と編成』や『コ・プロダクションの理論と実践 参加型福祉・医療の可能性』などの著書を手がけている。